

## アドバイザー派遣事業実施レポート

- 1 研究団体名 西伯郡小学校教育研究会道徳部会
- 2 実施期日 平成29年9月5日(火) 14時30分～16時30分
- 3 実施会場 大山町立名和小学校 多目的教室
- 4 アドバイザー氏名 畿央大学教育学部 教授 島 恒生
- 5 研修テーマ 考え、議論する道徳 ～「特別な教科道徳」の実施に向けて～
- 6 テーマ設定の理由

平成30年度より道徳が「特別な教科道徳」としてスタートする。キーワードは「考え議論する道徳」である。これは新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」からきているものと考ええる。また、教科になると評価が必要になる。そこで、「これまでの道徳とどこが変わるのか」「どのように評価していくのか」「次年度に向けてどのような準備が必要か」などについて、明らかにしたいと考えテーマを設定した。

### 7 研修会(9月5日)での学び

#### (1) 問い(発問)の大切さ

##### ①主体的な学びを作るために

「考えてみたくなる」必然性のある問い(発問)を作る。

##### ②対話的な学びを作るために

「友達の考え」「隣の子の考え」を聞いてみたくなるような問い(発問)を作る。

##### ③深い学びを作るために

登場人物の感じたことや考えたことを問う発問に終わるのでなく、道徳的価値について自分の考え、自分の生活や生き方ともかかわりあわせながら考えることができる問い(発問)を作る。

##### ④繰り返し、分からないふり、揺さぶりの大切さ

一人一人が考えることができるように、児童の意見を切り返す、分からないふりをして他の児童に話させる、児童の考え深まるように揺さぶりをかけることも大切である。

#### (2) 教育活動全体で行う道徳教育と道徳科のつながり

##### ①全体計画と別葉の作成

全体計画を立てるとともに、学校行事をはじめとする特別活動や各教科と道徳科とのつながりがわかるように別葉の作成が大切になる。

##### ②児童が責任を持ち協力して取り組むことができる活動の活性化を図る。

#### (3) 評価について

##### ① 児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、顕著と認められる具体的な状況を記述する。

##### ②児童の成長を励ます個人内評価とする。

##### ③大きくりなまとまりを踏まえた評価とする。

##### ④個別の内容項目についての評価はしない。

##### ⑤指導と評価は一体として考える。

以上の内容を教材資料「ブランコ乗りとピエロ」「手品師」を使いながら研修をした。

### 8 研修を生かす

西伯郡小学校教育研究会道徳部会では、次のような作業に入っていく。この作業は、各学校ごとに行う予定である。

#### ①道徳の全体計画(別葉を含む)の作成

#### ②道徳年間指導計画の作成

#### ③中心発問を工夫した1時間ごとの指導計画の作成